

## 展示室5 現代の美術 I 2018年4月14日(土)～6月17日(日)

本室では、9人の作家による、モノクロームに近い落ち着いた色調による作品を抽象表現を中心にをご紹介します。  
「モノクロームによる絵画」はふつう一色で描画されていることを意味しますが、今回の展示では厳密に1色に限定したわけではありません。私たちは黒に加えて背景の白を楽しむことができ、黒以外の色のグラデーションを楽しむことができる作品も展示されています。モーリス・ルイス《ダレット・サフ》は、全体がセピア色に仕上げられていますが、実際作者は赤、緑、黄、オレンジの絵の具を流し込み、カンヴァス地に染みこませた上に淡い褐色をかけて完成させています。色の数を限定することで、色は面として浮き上がり、抽象的な形のおもしろさにより目が向きやすくなるともいえるでしょう。

立体作品についても、モノクロームであることは、作品と周囲の空間との関係により注目させやすくなることだといえるでしょう。斎藤義重の《複合体501》は、現代棟のこのキュービックな空間と白い壁を背景に、未完成の建築物のように、黒い板の集積が観る位置によってさまざまな顔を見せながら、幾何学的な形のおもしろさを伝えてくれます。

パリ留学後、イタリアに長く滞在した保田春彦は、古代の遺跡や中世の寺院を訪ね歩いた経験を、西洋的な都市のイメージとして抽象化し、直方体や立方体を基本とする硬質な彫刻空間へと結実させます。今年1月に87歳で逝去した作者を追悼し、3点の作品を出品します。

No.	作者名	(生没年)	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	備考
1	ベン・ニコルソン	(1894-1982)	1968年1月1日(滑らかな小石)	1968	油彩、ウォッシュ・板	64.0×60.0	
2	バーバラ・ヘップワース	(1903-1975)	球体のなかのうねり	1938	チーク材	25.7×33.5×27.4	
3	斎藤義重	(1904-2001)	複合体501	1989	木、ラッカー、ボルト	340.0×800.0×420.0	
4	モーリス・ルイス	(1912-1962)	ダレット・サフ	1958-59	アクリル・カンヴァス	233.0×344.0	
5	宮脇愛子	(1929-2014)	作品	1960-61	油彩、大理石粉・板	182.0×363.0	
6	保田春彦	(1930-2018)	立方体分割のための習作	1970	真鍮、ニッケルメッキ	36.0×36.2×36.0	作者寄贈
7	保田春彦	(1930-2018)	立方体試作	1971	真鍮、ニッケルメッキ	18.5×21.0×21.0	作者寄贈
8	保田春彦	(1930-2018)	ソフィットA	1977	銅	31.5×31.5×31.5	作者寄贈
9	濱野年宏	(1937- )	作品79-3	1979	油彩・カンヴァス	227.0×181.8	
10	榎倉康二	(1942-1995)	干渉(STORY- No.45)	1992	アクリル塗料、アクリル絵具、木材・綿布	197×290.9×7.5	寄託作品
11	和南城孝志	(1949-2003)	天の軸	1998	イタリア・カラーラ白大理石	63.0×15.0×11.0	和南城洋子氏寄贈

※出品目録と展示は順番が異なります。

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。